

皆様おはようございます。9月最後の礼拝です。今年も残すところあと3か月ですね。

彼らは新しい歌を歌って言った、「あなたこそは、その巻物を受けとり、封印を解くにふさわしいかたであります。あなたはほふられ、その血によって、神のために、あらゆる部族、国語、民族、国民の中から人々をあがない、

わたしたちの神のために、彼らを御国の民とし、祭司となさいました。彼らは地上を支配するに至るでしょう」。 黙示録5章9-10節

神の一人子イエス・キリストが、私たちの贖いのためにこの地上にやってきてくださいました。

マタイ 20:28 それは、人の子がきたのも、仕えられるためではなく、仕えるためであり、また多くの人のあがないとして、自分の命を与えるためであるのと、ちょうど同じである」。

このお方こそ、権威と力と知恵、慈しみと愛とを備えた方、そしてこれから起こることを示す巻物の七つの封印を解くことがお出来になるお方です。

6:1 小羊がその七つの封印の一つを解いた時、わたしが見ていると、四つの生き物の一つが、雷のような声で「きたれ」と呼ぶのを聞いた。

2 そして見ていると、見よ、白い馬が出てきた。そして、それに乗っている者は、弓を手に持っており、また冠を与えられて、勝利の上にもなお勝利を得ようとして出かけた。

今日の個所では七つのうちの六つの封印が解かれます。

最初の四つの封印が解かれる時には4章に出てきました四つの生き物がそれぞれ「来たれ」とヨハネを呼びます。そして見ていると、白、赤、黒、青白い色をした馬がそれぞれ登場します。

白い、輝かしい馬は勝利を意味しているようですが、その馬に乗っている者は、手に弓を持ち、そして頭には冠が与えられています。

この百戦錬磨の乗り手は、勝利の上になお勝利を得ようとして出掛けていきます。

この巻物にはこれから起こることが記されてあります。七つの巻物の封印全てが解ける時、この巻物の中身がすべてあらわされる時、それは神様の裁きが余すところなくあらわされる時です。そこに向かって、一つ、また一つと段階が進んでいきます。人の愚かさと罪のために、不法と暴虐のために、神様の裁きは進んでいきます。神様が慈しみのない裁きをしておられるのではなくて、人の神様への不信仰から来る慈しみの無さがこれら一つ一つの裁きと人の苦しみを招いているのです。

白い馬とその乗り手。あくまで征服することを求めてやまないこの乗り手が登場します。

3 小羊が第二の封印を解いた時、第二の生き物が「きたれ」と言うのを、わたしは聞いた。
4 すると今度は、赤い馬が出てきた。そして、それに乗っている者は、人々が互に殺し合うようになるために、地上から平和を奪い取ることを許され、また、大きなつるぎを与えられた。

火のように赤い馬が登場します。赤は流血の象徴です。

「それに乗っている者は、人々が互に殺し合うようになるために、地上から平和を奪い取ることを許され、また、大きなつるぎを与えられた。」

この人は大きな剣を持っていますが、この剣で多くの人の血を流すのではなくて、人々が互いに殺し合い、地上から平和を奪い取るためにこの馬と乗り手は遣わされます。

皆様は、神様が「人々が互に殺し合うようになるために、地上から平和を奪い取ることを許され、また、大きなつるぎを与えられた。」なんてことをなさるとは信じがたいと思われるかもしれません。

イエス様はこうおっしゃいました。

ルカ 12:31 ただ、御国を求めなさい。そうすれば、これらのものは添えて与えられるであろう。

12:32 恐れるな、小さい群れよ。御国を下さることは、あなたがたの父のみこころなのである。

12:33 自分の持ち物を売って、施しなさい。自分のために古びることのない財布をつくり、盗人も近寄らず、虫も食い破らない天に、尽きることのない宝をたくわえなさい。

12:34 あなたがたの宝のある所には、心もあるからである。

12:35 腰に帯をしめ、あかりをともしていなさい。

12:36 主人が婚宴から帰ってきて戸をたたくとき、すぐあけてあげようと待っている人のようにしていなさい。

12:37 主人が帰ってきたとき、目を覚めているのを見られる僕たちは、さいわいである。よく言うておく。主人が帯をしめて僕たちを食卓につかせ、進み寄って給仕をしてくれるであろう。

12:38 主人が夜中ごろ、あるいは夜明けごろに帰ってきてても、そうしているのを見られるなら、その人たちはさいわいである。

12:39 このことを、わきまえているがよい。家の主人は、盗賊がいつごろ来るかわかっているなら、自分の家に押し入らせはしないであろう。

12:40 あなたがたも用意していなさい。思いがけない時に人の子が来るからである」。

12:41 するとペテロが言った、「主よ、この譬を話しておられるのはわたしたちのためなのですか。それとも、みんなの者のためなのですか」。

12:42 そこで主が言われた、「主人が、召使たちの上に立てて、時に応じて定めのある食事をそなえさせる忠実な思慮深い家令は、いったいだれであろう。

12:43 主人が帰ってきたとき、そのようにつとめているのを見られる僕は、さいわいである。

12:44 よく言うておくが、主人はその僕を立てて自分の全財産を管理させるであろう。

12:45 しかし、もしその僕が、主人の帰りがおそいと心の中で思い、男女の召使たちを打ちたたき、そして食べたり、飲んだりして酔いはじめるならば、

12:46 その僕の主人は思いがけない日、気がつかない時に帰って来るであろう。そして、彼を厳罰に処して、不忠実なものたちと同じ目にあわせるであろう。

12:47 主人のころを知っていながら、それに従って用意もせず勤めもしなかった僕は、多くむち打たれるであろう。

12:48 しかし、知らずに打たれるようなことをした者は、打たれ方が少ないだろう。多く与えられた者からは多く求められ、多く任せられた者からは更に多く要求されるのである。

12:49 わたしは、火を地上に投じるためにきたのだ。火がすでに燃えていたならと、わたしはどんなに願っていることか。

12:50 しかし、わたしには受けねばならないバプテスマがある。そして、それを受けてしまうまでは、わたしはどんなにか苦しい思いをすることであろう。

12:51 あなたがたは、わたしが平和をこの地上にもたらすためにきたと思っているのか。あなたがたに言うておく。そうではない。むしろ分裂である。

12:52 というのは、今から後は、一家の内で五人が相分れて、三人はふたりに、ふたりは三人に対立し、

12:53 また父は子に、子は父に、母は娘に、娘は母に、しゅうとめは嫁に、嫁はしゅうとめに、対立するであろう」。

12:54 イエスはまた群衆に対しても言われた、「あなたがたは、雲が西に起るのを見るとすぐ、にわか雨がやって来る、と言う。果してそのとおりになる。

12:55 それから南風が吹くと、暑くなるだろう、と言う。果してそのとおりになる。

12:56 偽善者よ、あなたがたは天地の模様を見分けることを知りながら、どうして今の時代を見分けることができないのか。

主は、御国のために生きることをお教えになりました。神の国とその義とを第一とする生き方を教えられました。そのための障壁となるのならば、家族との間に対立をももたらすと語られました。また、不義を働く体の一部分を切り捨てても、命に入る方が幸いであると語られました。

マルコ 9:42 また、わたしを信じるこれらの小さい者のひとりをつまずかせる者は、大きなひきうすを首にかけられて海に投げ込まれた方が、はるかによい。

9:43 もし、あなたの片手が罪を犯させるなら、それを切り捨てなさい。両手がそろったままで地獄の消えない火の中に落ち込むよりは、片手になって命に入る方がよい。

白き馬、弓と冠を頂いた乗り手は、神の義の勝利のために地上を歩き巡りました。赤い馬とその乗り手は、すでに人々が背き合い、憎しみ合い、心の中で殺し合っている不法の時代にあつて、平和を奪い取るような時代にあつて、そういう現実がはっきりとあるということを目指し示しています。決して人を墮落させ、殺し合うことを助長したり、平和を奪い取つて戦いに仕向けている訳ではありません。人のそのような燃えるような罪の中、すでに流血をして止まないその人の罪深さを裁くために、その帰結を示すために、殺し合うものが更に殺し合うこと、平和が奪われるがままになつて行くことを、その馬の乗り手は戦いの象徴である剣を持ちながら、そうした世の中の悪の動きの帰結がはっきりと表れるために遣わされたのだと思います。

マタイ 24:3 またオリブ山ですわつておられると、弟子たちが、ひそかにみもとにきて言つた、「どうぞお話してください。いつ、そんなことが起るのでしょうか。あなたがまたおいでになる時や、世の終りには、どんな前兆がありますか」。

24:4 そこでイエスは答えて言われた、「人に惑わされないように気をつけなさい。

24:5 多くの者がわたしの名を名のつて現れ、自分がキリストだと言つて、多くの人を惑わすであらう。

24:6 また、戦争と戦争のうわさを聞くであらう。注意していなさい、あわててはいけな。それは起らねばならないが、まだ終りではない。

24:7 民は民に、国は国に敵対して立ち上がるであらう。またあちこちに、ききんが起り、また地震があるであらう。

24:8 しかし、すべてこれらは産みの苦しみの初めである。

24:9 そのとき人々は、あなたがたを苦しみにあわせ、また殺すであらう。またあなたがたは、わたしの名のゆえにすべての民に憎まれるであらう。

24:10 そのとき、多くの人がつまずき、また互に裏切り、憎み合うであらう。

24:11 また多くのにせ預言者が起つて、多くの人を惑わすであらう。

24:12 また不法がはびこるので、多くの人々の愛が冷えるであらう。

24:13 しかし、最後まで耐え忍ぶ者は救われる。

24:14 そしてこの御国の福音は、すべての民に対してあかしをするために、全世界に宣べ

伝えられるであろう。そしてそれから最後が来るのである。

5 また、第三の封印を解いた時、第三の生き物が「きたれ」と言うのを、わたしは聞いた。そこで見ていると、見よ、黒い馬が出てきた。そして、それに乗っている者は、はかりを手を持っていた。

6 すると、わたしは四つの生き物の間から出て来ると思われる声が、こう言うのを聞いた、「小麦一ますは一デナリ。大麦三ますも一デナリ。オリブ油とぶどう酒とを、そこなうな」。

黒い馬は飢饉の象徴です。一ますは約一リットルの分量ですが、ひとりの一日分の食糧だそうです。それが一デナリとは、その食べる物を買ってそれで終わってしまうとのこと。大麦三ますも一デナリ。家族をやっと養えるぎりぎりの、飢饉のときの高騰した売買の基準がここに記されています。オリブ油とワインはぜいたく品の例えだそうで、食うや食わずの人もいれば、ぜいたく品もしっかり損なわずに売買しようとのこと、貧富の差が開いていくことが示唆されています。

7 小羊が第四の封印を解いた時、第四の生き物が「きたれ」と言う声を、わたしは聞いた。

8 そこで見ていると、見よ、青白い馬が出てきた。そして、それに乗っている者の名は「死」と言い、それに黄泉が従っていた。彼らには、地の四分の一を支配する権威、および、つるぎと、ききんと、死と、地の獣らとによって人を殺す権威とが、与えられた。

青白い馬は病人の青白い顔を象徴します。死に黄泉が従い、彼らは地の四分の一を支配する権威が与えられ、ききんと、死と、地の獣らとによって人を殺す権威とが与えられていました。

勝利を追い求め、戦うにいとまなく、互いに殺し合い、平和が奪われていく。今日も覇権をめぐる我先にと企て、他国に侵攻し、自国のこと、自分の事ばかりを考える戦争の時代に物価が上がり、貧富の差が広がり、病が広がり、社会不安が広がり、死者が出る、このような状況はこの今日の個所とそっくりだと思わざるを得ません。これは神様がしていることではなくて、人がしていることです。そういう世の終わりの出来事が、終末の出来事か、一段階一段階と、病が進行するように進んでいるということを私たちも悟らなければなりません。こういう中で、全世界の四分の一迄もが死と黄泉の支配を受ける危機にさらされているということ、そういう事態に陥ってしまうという事を私たちは知らなければなりません。

9 小羊が第五の封印を解いた時、神の言のゆえに、また、そのあかしを立てたために、殺された人々の靈魂が、祭壇の下にいるのを、わたしは見た。

祭壇にはいけにえとなった動物の血がささげられましたが、ここでは、神の言のゆえに、また、そのあかしを立てたために、殺された人々の霊魂が、祭壇の下に見えました。

このような不法の時代の中にあり、戦いや争いに明け暮れ、平和は朽ち果て、貧富の差は広がり、つるぎと、ききんと、死と、地の獣らによって殺されるような時代にあって、神の言葉とその証のゆえに進む人たちもまた、多くが迫害され、殺されました。

10 彼らは大声で叫んで言った、「聖なる、まことなる主よ。いつまであなたは、さばくことをなさらず、また地に住む者に対して、わたしたちの血の報復をなさらないのですか」。

いつまでこの不法の時代は続くのか。いつまで我慢をしなければならないのか。神様の当然の裁きはなされ、正義と公正とが世の中を支配するのかと、迫害され、殉教した者たちの魂が大声で祭壇の下から叫んでいます。

11 すると、彼らのひとりびとりに白い衣が与えられ、それから、「彼らと同じく殺されようとする僕仲間や兄弟たちの数が満ちるまで、もうしばらくの間、休んでいるように」と言い渡された。

もうしばらくの間とは、ほんの少しの間の時という意味です。

「同じく殺されようとする僕仲間や兄弟たち」の血が、殉教の命が重ねられるということは耐え難い苦しみですが、その数が満ちる時がもうほんの少しの間だからと神様は語られません。

神の言葉と証しとのゆえに殉教した人たちは、ひとりひとりにきらめく白い衣が着せられ、もうしばらくの間、休んでいるようにとのお言葉があります。困難と試練、葛藤の中、血を流し、命を奪われ戦った人たちのためには、その血みどろの服に変えて光り輝く白い衣があり、休息の時があります。そして構成の現れる時はやってきます。

12 小羊が第六の封印を解いた時、わたしが見ていると、大地震が起って、太陽は毛織の荒布のように黒くなり、月は全面、血のようになり、

13 天の星は、いちじくのまだ青い実が大風に揺られて振り落されるように、地に落ちた。

14 天は巻物が巻かれるように消えていき、すべての山と島とはその場所から移されてしまった。

15 地の王たち、高官、千卒長、富める者、勇者、奴隷、自由人らはみな、ほら穴や山の岩かげに、身をかくした。

16 そして、山と岩とにむかって言った、「さあ、われわれをおおって、御座にいますかたの御顔と小羊の怒りとから、かくまってくれ。

あんなに大手を振って、恐れ無しで歩いて、悪事の限りを尽くしていた人たちが、人のいのちをも平和をもなんとも思わなかった人たちが、大きな自信と天変地異に恐れ、主の恐ろしき怒りを畏れて逃げ惑い、隠れ、裁きを恐れるその時がやって来ることを聖書は語っています。

17 御怒りの大いなる日が、すでに来たのだ。だれが、その前に立つことができようか」。

既にいくつもの封印が解かれ、世の中に混乱と無秩序が浸透しているようなこの時代、来るべき神様の怒りと裁きを知る私たちは、迫害の危険をはっきりと知りながらも、罪ある世の中であって、神の言葉とその証とのゆえに生きなければならない、その時はごくわずかの短い間であるからと、また再び胸に刻みたいと願います。

◇祈禱；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。世の罪のため、次々と人の世に災難がもたらされ、世の終わりが近づいていきます。生きるのがつらくなり、困難が、戦いが増し加わり、人の命が失われます。迫害もいよいよ激しくなり、神の言葉と、そのあかしのゆえに人々に殺されるようになります。神様は迫害による犠牲者たちの数が満ちる時、それはほんのもう少しの後の時とおっしゃいました。大地震と天変地異の時。そして終わりのさばきの時。残されたわずかの時、私たちが恐れず祈り、神の言葉と証しとのゆえに励むことが出来るよう、強めて下さい。子供からお年寄りまで、あらゆる年齢の方々が、この時こそ教会にて、イエス・キリストに出会うことができますようお願いいたします。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン